



荒尾市文化協会副会長
たじま しゅういち
田島 衆一さん

若者たちにも活躍してもらいたい

私は荒尾市文化協会の美術工芸部門に所属しています。若い頃から40代までは、粘土を使って像をつくる「塑像」の制作を続けてきました。そのご縁で二科展のグループに所属することとなり、現在は洋画（油絵）を描いています。環境問題をテーマにすることや、ピエロをモチーフにした作品が多いですね。文化協会には長く関わっており、副会長を務めて15年ほどになります。しかし今は高齢化が進み、加盟団体や会員数の減少が課題です。文化活動を維持していくためにも、若者たちには積極的に参加していただきたいですね。伝統を守ることが大切ですが、若い世代の関心や興味にも目を向ける必要があります。文化祭をはじめ、各分野の体験会などで、若者たちが文化に触れる機会をつくっていききたいです。

些細なキッカケが、文化の縁を結ぶ

荒尾市文化協会では、毎月の常任理事会や荒尾市民文化祭の会合に出席しています。一人で活動していると自分の分野しか分かりませんが、協会の活動を通じてさまざまな分野の人たちと知り合えるので、とても良いご縁をいただいています。私は18歳頃から俳句をはじめ、現在は3教室で生徒さんにその魅力を伝えています。子ども時代に大病を経験し、国語をしっかり学ばせませんでした。実家の造園業を手伝う中で、市内でも有名な俳句の先生に出会い、勧められてこの道に入りました。人生、何がきっかけになるか分かりませんね。こうした経験から、文化祭や各部門の展示会などが、文化に触れる機会になることはとても良いことです。地元の文化活動がさらに広がっていけば素晴らしいですね。



荒尾市文化協会副会長
あらお
荒尾 かのこさん

荒尾市文化協会には、さまざまな部門があり、積極的に活動しています！

第1部会	第2部会	第3部会	第4部会	第5部会	第6部会	第7部会
文芸関係 ・詩・短歌 ・俳句・川柳 ・狂句・童謡 ・童話・創作 など	美術工芸関係 ・洋画 ・日本画 ・俳画・彫刻 ・書道・写真 ・陶芸・工芸 など	芸術芸能関係 ・日本舞踊 ・三曲 ・合唱団 ・音楽・演劇 ・バレエ ・謡曲 など	伝統芸術関係 ・茶道・華道 など	伝統芸能関係 ・詩吟・詩舞 ・剣舞 など	民俗芸能関係 ・民謡・民舞 ・フラダンス ・太極拳 など	その他 ・文化財保護 ・自然を守る会 ・その他左記 部会に属さ ないもの など

新たに加盟する文化活動団体を募集中！

興味のある人は、気軽にお問い合わせください。

☎ 荒尾市文化協会事務局 ☎090-7156-4388(林)

文化の秋、芸術の秋。

荒尾市文化協会はこの秋、
記念すべき節目を迎えます。

荒尾市文化協会

50 Anniversary 周年

荒尾市文化協会は今年、記念すべき創立50周年を迎えます。

昭和50年に「荒尾市文化連合会」として発足し、長きにわたり、市民の文化活動の促進、文化団体相互の連携、地域文化の育成のため、活動続けてきました。現在、市内外で活躍するさまざまなジャンルの文化活動団体が40団体加盟し、会員数は515人にのぼります。

荒尾市文化協会の歴史

- 昭和50年(1975年)11月16日
荒尾市文化連合会発会式
翌年から荒尾市民文化祭を開催
- 昭和53年(1978年)10月10日
荒尾市文化連合会機関紙『荒尾文化』創刊号(No.1)発刊
- 平成20年(2008年)5月31日
広く加盟団体を募ることを目的に、県内他市町村の状況を踏まえ「荒尾市文化協会」に名称変更
- 令和7年(2025年)
創立50周年記念 第50回荒尾市民文化祭を開催

伐られても次々と芽吹く「蘗」のように、 文化が絶えず生まれてほしい

荒尾市文化協会は、7部門の展示会などの活動を取りまとめ、毎年秋に「荒尾市民文化祭」を主催しています。私は協会の仕事をしながら美術工芸部門に所属し、「小代焼 ふもと窯」で作品づくりをしています。中学時代の恩師に勧められて始め、今年でこの道68年になります。出身が南関町だったこともあり、小代焼を学びたいと思い、昭和43年にふもと窯を開きました。この小代焼のように、荒尾市には豊かな文化があります。土地に根付く文化は、ここで暮らす人や、故郷とする人たちの心の支えになっていると思います。荒尾市の多様な文化を絶やさず、後に続く人たちを育てたいです。伐られても次々と若い芽を出す「蘗」のように、文化の芽も絶えず生まれ、伸びてほしいですね。その意味でも、荒尾市民文化祭や、協会の各部門が開催する催しは、新たな人々が文化に触れる機会になっています。協会は、「文化活動をしたい」「知りたい」という人たちの受け皿であり続けたいと思います。



荒尾市文化協会会長
いのうえ たいしゅう
井上 泰秋さん